

連続ワークショップ

まちづくり展開催中の平日、毎日やってます！

4.12(火)-15(金), 18(月)-22(金) 13:30-16:30

震災復興まちづくりを構想し、実践していくためには、皆が共有できる理念と、多面的な知見を集積した提案が必要です。

9日間に及ぶ連続ワークショップを通じて、日替わりでテーマを設定し、それに相応しい講師からショートレクチャーを受け、議論をしながら、しなやかな強さをもったまち built environment の実現につながる選択肢をたくさん用意していきます。

最終的には、国／自治体／NPO／市民の方々が利用できる、建築学会による提言／提案集とします。

4.12 火：神戸からのメッセージ

講：小林郁雄(きんもくせい)+青池憲司(映画監督)+真野洋介(東京工業大学)、モデ：北原啓司(弘前大学)+小浦久子(大阪大学)

阪神淡路大震災からの復興を担ってきた方々を講師に、批判された行政のあり方、市民と専門家の協働によるまちづくり、できあがった市街地の質、被災地だったまちの日常生活を検証する。

4.13 水：集落の再生

講：澤田雅浩(長岡造形大学)+重村力(神奈川大学)、モデ：野澤康(工学院大学)+饗庭伸(首都大学東京)

もともと衰退傾向にあった集落の将来をどう考えるのか？山古志や小千谷での実例を学びつつ、三陸における集落の被害実態をふまえて、高所移転の是非や空間の工夫等、具体的に議論する。

4.14 木：風景のストックを再生するために

講：水野雅男(法政大学)+進士五十八+大西隆(東京大学)+三宅諭(岩手大学)、モデ：佐藤滋(早稲田大学)

根こそぎという言葉が必要なほど、まちの風景は失われた。風景を作り出す担い手としての地域社会と、風景の土台となる豊かな自然との関係を、もう一度編み上げるための道筋を明らかにする。

4.15 金：復興まちづくりと仮設市街地

講：田口太郎(新潟工科大学)+濱田基三郎(首都圏総合計画研究所)、モデ：佐藤滋(早稲田大学)+三井所清典(アルセッド)

被災者がばらばらにならないように、コミュニティのつながりを尊重するために、仮設市街地が必要だ。仮設市街地をめぐるこれまでの議論や実験結果をもとに、今の東北への提言をまとめる。

4.18 月：漁村・離島の再生+社会経済・港湾の再生

講：富田宏(漁村計画研究所)+岡田知子(西日本工業大学)+山崎寿一(神戸大学)+早田幸(早稲田大学)、モデ：三宅諭(岩手大学)

東北の港湾は、漁業、物流拠点、造船といった様々な機能を担ってきた。空間計画と産業政策の両方の視点を併せて、漁村集落や港湾の再生プランとプロセスにおける考え方を構築する。

4.19 火：長期避難と仮り住まい

講：佐々木龍郎(佐々木設計)+齋藤寛(前東京都総合防災部)、モデ：饗庭伸(首都大学東京)

仮りの住まいを提供しようとするネットワークが起ち上がっている。長期避難をしている方々に届けるべき情報や届け方、避難状態から日常生活への移行支援の原則を確立する。

4.20 水：今こそ考える国土計画論

講：義原敬(義原計画事務所)+戸沼幸市(日本開発構想研究所)+鳴海邦碩(関西大学)+市古太郎(首都大学東京)、モデ：饗庭伸(首都大学東京)

未曾有の大災害からの復興には、国土計画の再考を必要とする。東京の事前復興まちづくりの到達点や現地調査の細やかな報告をふまえて、都市計画の改革を大胆に構想する。

4.21 木：復元力を引き出す震災復興まちづくり

講：中林一樹(明治大学)+澤田雅浩(長岡造形大学)+小林正美(明治大学)、モデ：川原晋(首都大学東京)+窪田亜矢(東京大学)

学生シャレットワークショップをはじめとする多くの方々からの具体的なアイデアを活かして、ここまでの連続ワークショップの蓄積を、一連のものとして練り上げる。

4.22 金：総括討論

講：中林一樹(明治大学)+加藤孝明(東京大学)、モデ：北原啓司(弘前大学)+西村幸夫(東京大学)

現地調査と防災学の知見をふまえて総括討論とし、震災復興まちづくりの提言提案集を完成させる。

講：講師、モデ：モデレーター

申込不要／飛入歓迎